

## うるち玄米 1 等級比率 90% 達成に向けて 健苗育成と適正田植えによる初期生育確保！

### ここがポイント！！

- 1 徒長苗にしない（ハウスの温度管理に注意）
- 2 移植前追肥を施用し、田植えは適切な時期と栽植密度で実施
- 3 除草剤は遅れずに散布

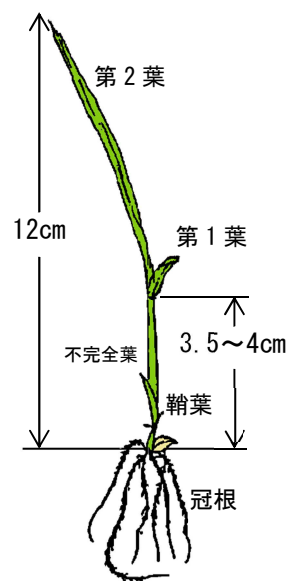
## 1 温度管理の徹底で健苗育成

### (1) 無加温育苗の温度管理と処理日数

| 育苗段階 | 終了段階の生育めやす       | 温度管理          |        | 処理日数    |
|------|------------------|---------------|--------|---------|
|      |                  | 昼間            | 夜間     |         |
| 出芽期  | 出芽長 0.5～1cm      | 30℃（最低 10℃以上） |        | 5～7 日   |
| 緑化期  | 第 1 葉鞘長 3.5cm    | 20～25℃        | 15～18℃ | 2～4 日   |
| 硬化期  | 苗丈 12cm、葉数 2.0 葉 | 15～20℃        | 10℃以上  | 12～13 日 |

### (2) 育苗後半(硬化期)の管理

- 日中はハウスを全開にして十分外気に慣らす(徒長苗防止)。
- 田植えの 1 週間前からは、夜間もハウスを開き外気に慣らす(ただし低温・降霜時はハウスを閉じる)。
- かん水は 1 日 1 回午前中に行い、硬化期後半は 1 日 1～2 回行う(夕方は床土の温度を低下させるのでかん水しない)。
- プール育苗では、緑化終了後に湛水を開始し、湛水後は原則として昼夜ともにハウスを開放する(ただし低温・降霜時はハウスを閉じる)。



稚苗の生育目標

## 2 移植前追肥

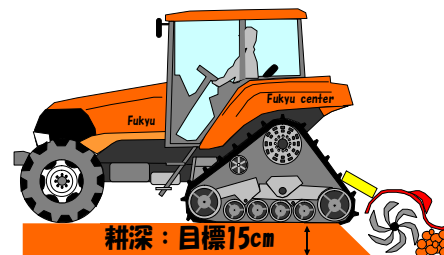
- 苗の老化防止と田植え後の活着促進のため、移植前追肥を田植え 4～5 日前に窒素成分で 1 箱当たり 1～2 g 施用する(ただし軟弱苗や徒長苗には施用しない)。

## 3 適正な基肥施用

- 基肥+穂肥の分施肥体系では、過剰生育を抑え 1 回目の穂肥がしっかり施用できる稲姿となるように基肥窒素量を調節する。
  - 基肥一発肥料で、前年に倒伏したり過剰生育だった場合は減肥する。
  - 基肥を施用した後は、肥料成分の流亡を防ぐため 1 週間以内に耕うん・入水する。
- ※気象災害軽減のため、土壌改良資材や土づくり資材を積極的に活用する。

#### 4 耕うんの深さは「15 cm」を目標

- 根の分布を広げるため、耕深は 15cm を目標とする（一気に深くせず今までより 1～2cm 深くする）。
- ワキの発生抑制、耕深の安定化のため、耕うんは可能な限りほ場が乾いてから低速で行う。



#### 5 適期田植えの実施（早植え注意！）

- コシヒカリの田植えは5月10日以降に行う。
- 早植えは出穂期が早まり、高温条件下での登熟によって乳心白粒等が発生しやすくなるため、品質低下の危険が高まる。また生育過剰による倒伏や籾数過多で米粒の充実不足になりやすい。

#### 6 栽植密度・植え込み本数・植え付け深さ

- 栽植密度は、

|   |                               |
|---|-------------------------------|
| { | 茎数が過剰になりやすいほ場は坪当たり 50 株       |
|   | 早生品種や茎数が確保しにくいほ場は坪当たり 60～70 株 |
- 植え込み本数は1株当たり3～4本、植え付け深さは2～3cm

#### 7 田植え後の水管理

- 活着するまでは3～4cmのやや深水の管理（低温や強風による植え傷み防止）。
- 活着後は2～3cmの浅水管理で水温の上昇を図り、分けつの発生を促進する。
- ワキの発生が多い場合は夜間落水でガス抜きを行う（2～3回繰り返す）。
- 藻や表層剥離の発生に注意し、早めの水の入れ替えや夜間落水、または対象薬剤で対応する（気温が高く、雨が少ない年は特に注意）。

#### 8 除草剤の効果を最大限に発揮

- 丁寧な畦塗りや代かきで漏水を防止し、田面を均平にしておく。
- 初・中期一発処理剤の使用を基本とし、早めの散布を心がけ散布適期を逃さない（初期剤を使用する場合は移植前処理を避け、移植時または移植直後に使用）。
- 散布時の水深は3～5cm程度を確保する（ジャンボ剤・豆つぶ剤は5～7cm）。
- 処理後7日間は給水せず止め水とし、4～5日間は湛水状態を保つ（落水や掛け流しは厳禁）。

#### 9 新之助研究会の方へ ～新之助栽培のポイント～

- 田植えは、5月中旬（11日以降）に行う。
- 今年から作付けするほ場は、漏生籾由来の異品種混入防止対策として、除草剤は体系処理とし、生育期間中は条間や株間の稲株を抜き取る。
- 葉いもち防除(箱施用または水面施用)を必ず実施する。

#### メールマガジン登録募集中！

年間を通じ水稻生育状況や栽培管理のポイント、作柄に関する情報をお届けします！  
登録ご希望の方は以下のアドレスにご連絡を！

[ngt112130@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt112130@pref.niigata.lg.jp)

※件名に「作物技術情報メールマガ登録希望」、本文に「お名前」と「住所」をご記入ください